

道徳の授業を、児童のノートから評価する

足利市立三重小学校教諭 河内 忠之

1 はじめに

昨年夏、県の小学校教育研究会道徳部会で、道徳ノートに関する実践記録の募集を行なった。日ごろ、授業をするにあたり、話し合いにばかり終始しノートに記録するのはわずかしかない授業を実際に経験し、それでよいのか疑問をもったことが何度となくあった。また、反対に、書くことにばかり時間を費やし、かんじんの話し合い等集団思考による価値の追求や一般化等の段階がおろそかになった経験などを反省し、一つこの機会にまとめて見ようと考えて応募してみた。そして、その際に応募された他地区の先生方の実践記録に目をおし、大いに勉強させていただいた。

また、昨年度の足利市立教育研究所の実践記録に応募した際の指導評には、「児童の変容をとらえる方法については、道徳ノートの活用も考えられる。」との、ご指摘をいただいた。

この二つのことをきっかけに、もう一ど道徳ノートについて、どういうことを書かせたらよいものなのか、どういう内容が記録されているのが望ましいノートなのか等考えてみた。

そして、さらに考えを進め、この児童のノートを通して、一時間の授業のあり方を評価することができないだろうかを問題とし、授業にあたってみた。

もちろん、指導法の評価は、ノートに記されたもの一面から行なったのでは、妥当性を欠くということを承知の上で、ここにとりあげてみた。以下に述べたことは、児童がノートに記録したものを分析し、授業の到達度をあらって見たものである。

2 ノートには、どんなことを記述させたらよいのか

授業を行なうにあたり、従来までの授業のあり方を反省し、どのような場面(時)にノートをとらせてきたかを考えてみた。

(1) 従来まで行ってきたノートのとらせ方

- ① 実態をは握するための一資料にと考え、資料を読んだ感想をまとめさせるもの
- ② 主要発問に対しての、自分の考えや立場を書かせる。
- ③ 今後の決意をノートさせる。
- ④ 1時間の学習を通して、感じたこと、考えたことなどをノートさせる。

等であったが、何かこれだけではものたりなさを感じたので、手近にある参考図書をひらいてみた。

それらによると、およそ次のようにまとめられていた。

(2) 参考図書に見る、ノートのとらせ方・記述内容

- ① 授業前に書かせること。

ア 資料についての意見

イ 児童の体験

等。教師側からいえば、児童の実態をは握する一面にもなるし、児童の意識をその方向へ向けることも可能になる。

② 授業中に書かせること

ア 主要発問についての自分の考えやとるべき態度

- ・ 中心人物の心情の変化 …………… 内容を深く追求させるため
- ・ 中心人物の生き方・考え方 …………… 理解したことを確認するため
- ・ 中心人物を通じた自己の考え方 ……………
- ・ 自分の考え、今後のあり方 …………… 理解したことを自己と、結びつけ反省的思考とするため

イ 資料に関すること

- ・ 感動した点・考えたこと …………… 問題をとらえるため
- ・ 資料の事実関係

③ 授業後に書かせること

ア 1時間の授業を通して考えたこと、感じたこと

イ 実践するときにあたっての問題点、また、実践しての問題点

このように見ていくと、今まで行なってきたことでも、それほど大きなおちはないと思われた。そこで、実際の授業にあたり、その結果を分析してみた。

3 授業の実際

まず、はじめに、人類愛という価値を指導するにあたって、教師として児童の実態の一面でも知っておきたいと考え、また、書かせることによって、児童に多少の意識をもたせるということを考慮して、調査をした。

それをもとに指導案をつくり、実際の授業を行なった。

授業が、どうであったかを評価するために、2面からあたってみた。

ア 特定の児童の一時間のノートの記述からみる評価

イ クラス全体のノートの傾向からみる評価

以下、このような手順で述べてみたいと思う。

(1) 事前調査について

次のような課題を与え、家でノートに記させてきた。

- A 明るい美しい世の中とは、どんな世の中だと思いますか。
- B 世界の人々のために活躍した人で、どんな人を知っていますか。
- C 戦争や事故でなくなった人の家族のことを思うと、どんなことを考えますか。

結 果

Aについて

ア 戦争や事故がない世の中

イ 公害がない世の中

- | | |
|---------------------|------------------------|
| ウ 信じ合い助け合う，協力しあう世の中 | エ ゆうかい，ドロボウのない世の中 |
| オ 道にゴミのない世の中 | カ 人の心が清らかな世の中 |
| キ みんなが平等 | ク 国民ひとりひとりが国を愛し，未来を見る。 |
| ケ 平気で小鳥がさえずる | コ 自分のことだけでなく，人のことも考える。 |
| サ 科学の進んだ世の中 | シ ゆったりしている，人と人との結びつきが |
| ス 古いしきたりを残す 等 | ある。 |

Bについて

- | | | | | |
|-----------|------------|-----------|-----------|---------|
| ア 野口英世 | イ 湯川秀樹 | ウ リンカーン | エ エジソン | オ ノーベル |
| カ ナイチンゲール | キ アームストロング | ク ライト兄弟 | ケ 川端康成 | |
| コ デュナン | サ ケネディ | シ 聖徳太子 | ス コッホ | セ コロンブス |
| ソ ナポレオン | タ 朝永振一郎 | チ 世の中の人全部 | ツ ジュバイツァー | |

Cについて

- ア 世の中から戦争をなくさなければならないと思う。
- イ ひじょうにかわいそうに思う。
- ウ 悲しく思う。
- エ どう生きていくか同情する。
- オ 戦争など，どうしてしたのか，いきどおりを感じる。
- カ 二度とないようにしてほしいと思う。
- キ 身のまわりの親しい人を例にして考えてしまう。
- ク かわいそうで，何か自分でできることをしてやりたいと思う。
- ケ 自分はしあわせだなあと思う。
- コ 人間の欲望のまきぞいにされ，あわれすぎると思う。
- サ かわいそうにも思うが，しかたがないという気持ちもある。

(2) 事前調査の分析と，指導案への生かし方について

① Aの「明るい美しい世の中とは，どんな世の中だと思いますか」について

まず，最も多かったのは，戦争や交通等などによる事故のない世の中，すなわち平和な世の中であるということ。次に，公害のない世の中という順になった。

このようにみていくと，現在の世の中，すなわち，戦争が行なわれ，交通事故が頻繁に起こり公害問題でさわいでいる世の中は，明るい美しい世の中とはいえないのである。

しかし，それらの現象面だけを解決すれば，明るい美しい世の中となるかということ，そうはいかない。児童の解答に，いくつか例があるように，もっともっと人の心に関係あることがらが，改善される必要があるのである。ウの「信じ合い助け合う，協力しあう世の中」，カの「人の心

が清らかな世の中」，クの「国民のひとりひとりが国を愛し，未来を見るような世の中」など，その代表的なものといえる。ここに，道徳教育の存在する意義があるのだと思う。

本時の指導には，その趣旨を生かし，「自分たちは，どのような心がまえをもったらよいか」という。終末までの段階に結びつけていきたい。

② Bの「世界の人々のために活躍した人で，どんな人を知っていますか」について

特に，人類愛とはっきり限定してあげさせたのではないために，社会科の教科書等をひらいて書いたと思われる面がたぶんに見られる。

教師の側では，シュバイツアーや，デュナン，ナイチンゲール等があげられることを期待したのであるが，問題がわるかったせいか，あるいは，それらの人物についてよく知らないのかごく少人数のものしかあげていなかった。

一般化の段階では，ぜひ，この中からとりあげ，じゅう分に業績やその心情にふれさせたい。そのために，事前に教室環境等をくふうし，児童にふれさせておきたい。

③ Cの「戦争や事故でなくなった人の家族のことを思うと，どんなことを考えますか」について

特に注目しなければならないのは，サの「かわいそうに思うけれど，しかたがないという気持ちもある。」という二人の考え方である。

この考え方は，現代の世相を素直に反映していると思う。「かわいそうだけれど，自分に関係ないからいいや。」「かわいそうだけれど，手出しをするとめんどうになるから，いいや。」ということは，日常生活において数多く見られることである。

しかし，世の中の考えがそうであるからといって，この考えをそのままにしておいてはいけない。「しかたがない。」という考えではなく，その考えを乗り越えて，「何とかしてあげなくては」という感情にまで，高めたいものである。

そこで，展開案の中には，特にステップをふんで（1の①と④），その児童の反応をみながら指導を図りたい。ただ，この二人の考えには，正直に自分の考えを表わすという，大いに賞賛すべき点もっている。これなくして，うわべのよいことだけ言っていたのでは，本当の道徳授業は成り立たないからである。

(8) 授業について

① 授業案

ア 主題名 小さな食堂

イ 主題設定の理由

けがをした人を見ても，だれも手出しをしない。困っている人がいても手をかそうとする人さえいない。車で人をはねても，わが身をたいせつにし，けが人をそのままにして，逃げてしまうなど，あまりにも利己的で，他人の不幸などいっこうにかえりみない風潮は，おとなの世界から子どもの世界へと移りつつあるようだ。

事前調査に見るように，しぜんの感情として，児童は交通事故や戦争でなくなった人の家

族に対して、かわいそうだという感情を抱いている。自分と比べ、身のしあわせを感じているものさえ、見られるほどである。

しかし、この気持ちだけでは現実の問題を解決し、平和な世の中を実現するまでには至らない。だが、遠い将来、この純粋な気持ちが育っていくならば、戦争など起こるはずがないことを確信する。

そこで、本時では将来に夢をたくすと同時に、現在、自分たちは人類のためにどう努力すればいいのだろうかということを考えさせることを意図して、主題を設定した。

ウ ねらい

愛情と思いやりの心をもって、互いに協力して世界の平和と人類の幸福に尽くそうとする心情を育てる。

エ 資料選択の理由

文部省資料集の中にも同一のものをとりあげているが、このスライドをとりあげた。その理由として、次の2点から、視聴覚による効果の方が大であると判断したからである。

- ・ 内容が歴史的である上に、外国のものであること。
- ・ 人類愛という価値を扱う上からは、内容を実感的にとらえさせたい。

オ 展開集

展開過程	学 習 活 動	時	指 導 上 の 留 意 点	評 価
価値の追求 理解	<p>1 スライド「小さな食堂」を見て話し合う。</p> <p>① トルストイが無料食堂をたてたのは、どういうわけか。</p> <p>② トルストイの家族は、無料食堂を経営することに対してどうしたか。</p> <p>③ トルストイ夫妻の訴えの記事は、世界の人々にどのような反響をもたらしたか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ この動機をしっかりとおさえる。この動機こそ、トルストイの人類に対する愛情がにじんでいるところである。 ・ かわいそうだけれどしかたがない(事前)という児童の反応を観察する。 ・ トルストイの人類愛が、家族におよび家族も積極的に活動している点をおさえる。 ・ 世界の人々の心に感銘を与え人間愛をよびおこしたこと。 	トルストイの真意がつかめたか。

<p>価値への共鳴</p>	<p>④ このようなことから、人間はどんな心をもっていることがわかるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不幸な人々を黙視できない心 ・ 不幸な人や苦しんでいる人を助けたいという気持ち ・ みんなのしあわせを願う心 ・ よいことに進んで協力しようという心 ・ また、一方では、自分だけの安楽を守って、人の不幸を助けようとする心もあることをおさえない。 	<p>人間のかくされた心がつかめたか</p>
<p>価値の一般化</p>	<p>⑤ トルストイの人がらや考え方をどう思うか</p> <p>2 トルストイと同じように、世界中の不幸な人々を救ったり、人々の幸福のために努力した人々について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな理由で、どんなことをしたか。 ・ それらの人は、みなどんな心をもっていたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノートさせ、評価の資料としたい。 ・ 事前調査では、あまりあがらなかった。シュバイツァー、デュナン、ナイチンゲール等。とくに、シュバイツァーの心について説話してやりたい。 ・ 結果よりも、その動機となる心情面を重視したい。 	<p>共鳴できたか</p>
<p>意欲づけ</p>	<p>3 自分たちは、この人たちのようなことはできないが、今後、どんな心構えをもっていったらよいかノートにまとめる。</p> <p>4 互いに愛情と思いやりの心をもって助け合っていけば、世界中はどのように変わるか、考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近かなことで、可能なことから心構えを考えさせる。 ・ 教師の説話によって、意欲づけをはかる。 	<p>自分のものとして考えられているか</p>

② 授業の実際（紙面の都合で省略させていただきます。）

4 分析と考察

(1) 特定の児童(A児, M児)のノートの記録を通してみた評価

A児

1の①では、トルストイが無料食堂をたてた理由はわかるが、それは資料の中のものでしかない。自分たちから遠い世界の話だという程度の意識で、ボンヤリと話し合いに参加していた。

⑤では、「自分もたいせつにするが、ほかの人もたいせつにし、世界の人のためにつくすりっぱな人だと思う。」と、自分以外の人にまで目をむけている点に注目しているのは、やはり考え方が進んだものといえよう。

さらに3では、「トルストイのようなことはとてもできないけれど、まず小さいことから始めればいいと思う。学校の中のけんかをなくすために注意するというのも、いいことだと思う。」と記している。

M児

1の①では、積極的に挙手し、発言しようとする意志がみられた。上のA児とはちがひ、この段階から意識が高まり、関心がむけられている。

④では、ひと口に人類愛ということばで、人間の心をあらわしている。しかし、ノードを見ると、公正公平、人類愛、自分自分の責任、人に対する愛、だが中には、そう思っていない人もいる。とたくさん書かれている。

⑤では、「トルストイを立派だと思う。それでいて、あたりまえのことをしたと思っているところなど、えらい／ちょっとまねできないと思う。」と記している。

3では、「なんでも自分のことばかり考えず、いつでも人のことも考えながら、行動したい」と記している。

A児, M児とも、事前の調査では、「人が困っているのを見ても、しかたがないと思う」という意味の考えを述べたものである。ここに、特に抽出して考えてみたのである。

ノートに記されたことだけから断定することはできないけれど、他人の不幸を「対岸の火事」的に見ていたのが、身近に感じるようになっただけでも、効果があったものと思われる。

(2) クラス全体のノートの傾向から見る評価

授業を評価するために、クラス全員のノートを、次の4つの観点から考察してみた。

① 人間の心がどうとらえられたか

これはとりもなおさず、授業に真剣にとりくみ、素直に考えることができていくかどうかを把握することになると思う。

——ノートを分類してみると——

- ア 困っている人を助けてやろうという心
- イ やさしい心
- ウ 親切にしてやろうという心
- エ 世界を平和にしようという心

- オ 自分の生命だけでなく、他人の生命もだいじにしようという心
- カ 世界の人が自分の仲間だという心
- キ 助けたいと思っても、だれかがやらないと、やれない心
- ク 自分だけ助かろうという心

以上のようなものが主であったが、これを見ると、㊶～㊸は、とうぜん予想されることがらである。しかし、㊸のように連帯意識をもっている児童、まして㊶㊷に見られるような、人間の弱さ、みにくさまでは、考えていなかった。教師の認識不足だと反省している。㊶のような“人間の弱さ、勇気のなさ”などは、とてもよく考えなければ思いつかないことだし、ノートされないことだと思う。それが、じつに8人も記されていたということは、何回もいうように、このこと一つでは断定はできないけれど、児童が学習に真剣にとりこんでいたということがいえるのではないだろうか。

② トルストイの考え方の偉大さにふれさせることができたか

学習中、発問「トルストイの考え方や行動をどう思うか。」により、ノートさせてみた。

ノートを分類してみると

- | | | | |
|---|---------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ア | りっぱだと思う | 理由 | (ア) 人々を助けたから。 |
| イ | えらいと思う | | (イ) 自分だけでなく、他人のことも考えているから。
(ロ) 自分の身をなげうっても、貧しい人々を助けたいと考えたから。
(ハ) キキンの原因を政府におしつけず、自分の力で人々を救おうとしているから。
(ニ) 自分も困っているのに、人々を助けようとしたから。
(ホ) 自分さえよければという人が多いのに、その考えをのりこえているから。
(ヘ) 自分一人が苦しめば、大ぜいの人々が助かると考えたから。
(コ) お金があっても、こう考える人は少ないのに。 |

特筆すべきは、(ホ)の「自分も困っているのに……」ということに気づいていることであると思う。

トルストイのえらさは、他の面にもあるが、自分本位に考えれば、自分が困っているのは、他人のことなど考えられないのに、それをのりこえて自己にうちかっているところにあると思う。

ただ、このことを書いているものが少なかったのは、話し合いのところにもあらわれていた。気づいたものも少なかったのも、教師の方でしっかりおさえたいつもりであったが、ノートするまでの時間を与えなかったのも、メモできないものが多かったのだと考える。

ノートに記されたもののみで評価すると、このように児童の意識や考え方が、つかみとれないこともあるので、大いに注意したい。

③ 自分なりに“人類愛”という価値をとらえ、自分としてはどうあるべきかを考えさせることができたか。

人類愛や愛国心などの価値を扱う場合、その心情を養うだけにとどまり、自分たちの立場にまで下げて考えさせることをしない授業も行なわれるが、今回は、自分の足もとをよく見つめさせてみようと考え、この場面を授業中にとり入れ、次のように発問し、ノートさせた。

「自分たちは、トルストイやシュバイツァーなどのような行ないはできません。しかし、この勉強を機会に、どんな心構えをもって生活したらよいか」というような意味をこめて。

—— ノートを分類してみると ——

- ア 募金などに進んで協力する。
- イ 困っている人がいたら、誰でも助けてやる。
- ウ 自分かってなことをしないで、みんなで助け合う。
- エ みんなに親切にする。
- オ 「自分だけよければいい。」という考え方をすてて、みんなのために尽くしたい。
- カ 他の人がやっていることがよいことだったら、その人の後について協力していく。
- キ 他人のことを考えて、自分との差別をつけない。
- ク 思いやりをもつ。
- ケ 自分のことはあとでできるから、人のことをまずしたい。
- コ 苦勞している人が、一刻も早く楽になるようにといっている。

カのような考え方は、やや消極的ではあるが、児童の本心をそのままのぞかせてくれたように感じる。心構えをもつというのだから、ア～オ、キ～ケなどのようなことを、とうぜん考えてよいわけだが、カのように、あるいはコのように、もっと消極的な考え方がでてこそ、地についた学習がなされているといえるのではないだろうか。

このような考え方は、ともすれば平たんになりがちで、きれいごとで終わりそうな指導に活を入れてくれるものである。

ただ残念なことに、この児童は発言がなかったので、このりっぱな考えをみんなにひろうし、カンフル剤の役目を果たせなかった。教師が早くこれをつかみ、この時間中に生かせるようになると、もっと生きた授業がなされたであろうが……。とても残念だった。

- ④ 展開の最後に、やや理屈っぽく、だめ押し感がなくてもよかったが、「人々が、お互いに愛情とおもいやりの心をもって、助け合っていたら、今の世の中はどうか変わるだろうか。」という発問をとり入れてみた。

これによって、みんなが考えた明るい世の中になるということを再度おさえようと意図したのである。

—— ノートを分類してみると ——

- ア 人々の差別がなくなる。
- イ 人のことが、じゅう分信用できるようになり、生きていくことが楽しくなる。
- ウ 戦争がなくなり、国から国へ、何もされずに旅行ができるようになる。
- エ 花だとすれば、今がつばみで、そうなれば花が咲くというのと同じだと思う。

- オ どこへ行っても、なみだを流すことのない世の中。
カ 交通事故などなくなる。
キ ゆうかい、公害などのない世の中。
ク 平和で、人々はみな正直で、「悪」という字がない世の中。

この結果を、事前調査の「明るい美しい世の中とは………」と対比してみると、次のようなことがいえる。

戦争や公害のない世の中になるというのは大差ないが、とくに目立ったことは、人の心に関する記述が多いことである。

・ 人のことが、じゅう分信用できるようになり………

・ 心が正直で………

が代表するように、事前調査では見られない

ほどの数の伸びようである。

これは、いかに現在の世の中がすさんでいるかを物語り、児童が、そういう世の中から脱したいとねがう気持ちのあらわれかもしれないが、考え方が、「心」にまでおよぶ率が多くなったことは、授業にかなりの高まりがあったといってもよいかもしれない。

5 おわりに

初めにも書いたように、授業を評価するということは、多角的な面からじゅう分検討しなければいけないと思います。

しかし、ここにとりあげたノートにより評価するという方法も、そのうちの一つだといえると思います。単純に、一面から見て、授業がどうであったかをうんぬんするのは、おこがましいことですが先生方のご指導をいただきたく、あえて提案してみました。

この原稿をまとめる間に特に感じたことは、児童がノートに記していること、発言していることがすべて本心であるかどうかということです。教師の意図を察知するなどして、本心を変えられているようなことはないだろうかということです。現在の世の中は、何もかも疑ってかかる悪い風潮かもしれませんが、児童が記録したこと発言したことが、すべて児童の本心であるとのみにしてかかることは、危険かと思えます。特に、高学年になればなるほど、そうではないだろうか。

発言にノートの記録に、かくされているところの心情までを読みとる技能を身につけなければならないと痛く感じました。いや、技能を身につけるのではなく、「本心を率直に」話し合える学級のふんい気づくりをしなければならないのではないのでしょうか。

なお、この授業やまとめをするにあたり、文部省からの各図書のほかに、次のようなものを参考にしました。道徳教育辞典、道徳教育（主にⅡ95、103、122）

評

道徳性の評価が困難であることは、多くの人びとの認めておることであり、それゆえにこそ評価の研究の必要性がさげばれているわけであるが、筆者は、昨年も「道徳」しかられて”の授業を通してみた児童の変容」というテーマで教育論文集に応募、その成果を発表されている。このときには児童の一変容を発問に対する反応の分析と、児童の日記の検討によりとらえようとしておられたが、本年度は、この研究をさらに深め、児童のノートを用いて、道徳の授業の評価を検討しようとした。それが、本年度のこの実践記録である。

ノートを用いての道徳授業の評価は、児童の道徳性を的確には握し、あるいはその変容をとらえて授業を改善していくのに、非常に有効なまた実際的な方法であるとは常々考えていたが、本地区では、その問題に関する実践あるいは研究記録というようなものを、ついで見る機会に恵まれなかった。その意味ではたいへん貴重な実践記録と考えられる。この実践記録においては、2名の抽出児の道徳意識の変容がかなり明確にとらえられ、また学級全体の道徳意識の傾向がはっきりとうきぼりされている。また、事前調査の授業への的確な生かし方はすばらしく、これは他の教科の授業にも参考になるものと思われる。総じて、筆者の一応の期待にこたえうる実践の記録であろう。

なお、筆者も諸所に述べている、「道徳性の評価について多面的な角度からの検討の必要性」は同感である。児童の道徳性をみるのにも、筆者のとりあげた反応分析・日記・ノートの分析のほかに、観察法・面接法・質問紙法・テスト法・投影法等々その方法論は多い。しかも、評価の観点によってそれぞれの方法の長所・欠点の検討・吟味も必要であろう。何を、どこで、どのように評価するか。課題の多い領域ではある。筆者はもちろんこれらのことを念頭において、一つ一つ実践を積み重ねてこられた。今後のご精進を心からお祈りするものである。